立教大學新聞

発行所
豊島区池袋三丁目
立教大学新聞学会
郵便番号 70852
電話 (97)3121—9
内線 71
毎月廿日発行

二階に学習参考書を陳列して御待います
芳林堂書店
池袋西口バス通り
TEL (97) 四〇八〇・八〇二五

大学の自治

根本は人間に対する信頼の問題

松下正壽

清瀬文部大臣が大学自治は再検討を要するという意味の発言をされて以来大学自治ということが問題になっている。私は「再検討」に反対するものではない。「再」検討どころではなく、我々は一切の既成概念を虚心に、常に検討すべきである。一つの概念を絶対視するところに進歩がとまり、迷信が生れる。迷信は学問の敵である、我々は大学自治と男女共学を、民主々義を、天皇制をその他一切のものを絶え間無く検討し改むべきものは改め、廃止すべきものは廃止し、建設すべきものは建設しなくてはならない。しかし大学自治を再検討した上一定の変更を加えようというのであればその変更がどんなものであるかをよく聞いた上でなくては賛否の意見は述べられない。

私は大学自治は学問の自由を前提とし、学問の自由は人間であると思う。学問の自由は人間が絶対者でなく相対的存在であり有限であるということから派生する必然の結果であって、学問の価値を認める限り、それの自由（具体的には研究の自由）は当然認められなくてはならない。学問の研究が権力なり金力なりによって制約されるということは学問の自殺である。故に学問は権力にとって好都合なこともあれば不都合なこともある。好都合な場合には学問の自由を許すが不都合な場合には制約を加えるというのでは学問の自由にはならない。我々は社会の一機能として権力の存在価値を肯定するものではあるが、権力に対し学問への統制力を認めることは出来ない。学問の自由は、憲法で絶対視されている。学問の自由は人間の独立を意味する。学問の自由は抽象的理念であるからそれを具体的に実現するには一定の制度を必要とする。その制度として文明社会において経験上最も有効と認められたのが大学自治である。

すなわち大学自治そのものに価値があるのではなく、学問の自由に価値があるのであるから大学自治よりももっとよい制度が発見されればわれわれはさらに大学自治を固守しなくてもよい。ところが幸か不幸か、学問の自由は大学自治以外の制度としては知らない。ゆえに文部大臣が大学自治を利用しようとするならば、それを運用する人の性質によって濫用もされれば悪用もされる。大学自治も同様である。大学の自治は学問の自由を実現するための制度であるが、それを運用する人が学問の自由に無理解であるか、または予じめ一定の政治的目的を持って、その目的達成の手段として大学自治を利用しようとするならば、それは大学自治にはあっても学問の自由ではない。制度は偶像視すべきではないからである。しかし多少の濫用があるからといって大学自治を廃止するとか制約するとかいう性急改革論には賛成できない。根本は人間に対する信頼の問題である。私は根本において人間は学問の自由を愛していると思う。もしそうであれば学問を愛さない大学は衰え、学問を愛する大学は結局において栄えると思う。大学自治をやめると、そのような自由選挙の機会が失われる。私はどこまでも学大主義である。（筆者＝本学総長）

制度はそれを運用する人の性質によって濫用もされれば悪用もされる。大学自治も同様である。大学の自治は学問の自由を実現するための制度であるが、それを運用する人が学問の自由に無理解であるか、または予じめ一定の政治的目的を持って、その目的達成の手段として大学自治を利用しようとするならば、それは大学自治にはあっても学問の自由ではない。制度は偶像視すべきではないからである。しかし多少の濫用があるからといって大学自治を廃止するとか制約するとかいう性急改革論には賛成できない。根本は人間に対する信頼の問題である。私は根本において人間は学問の自由を愛していると思う。もしそうであれば学問を愛さない大学は衰え、学問を愛する大学は結局において栄えると思う。大学自治をやめると、そのような自由選挙の機会が失われる。私はどこまでも学大主義である。（筆者＝本学総長）

総長九州東北地方で O・B と懇談

夏期休暇を利用して

松下総長は二ヶ月に亘る夏期休暇を利用し去る七月十四日から十九日迄、東北地方（弘前、青森、盛岡、仙台）八月二十二日から三十日迄九州地方（別府、福岡、鹿児島、熊本、阿蘇、雲仙、長崎、佐賀）の二回に分けて地方同窓生父兄及び帰省中の学生との懇談を目的に各県立教会を単位として熊本旅行をした。途中盛岡、仙台での講演の他、九州では南日本、鹿児島両放送局を通じても講演した。総長は今回を機会に全国をまわる予定とのことだが本校の将来を次のように語った。

松下総長談

立教大学は東京の大学だけであってはならない。将来は世界の大学になる。そのためには日本の大学になることが必要だし、アジアの大学にもなることが必要だ。アジアの大学になるには中国、フィリッピン等からも留学生を招くこともいいだろう。これからは学内の充実だけを計ることも重要なので外国へはゆかない方針である。

藤田助教授イタリアに留学

宇宙線物理学の研究で

本学理学部藤田助教授が今月下旬、昭和三十一年度イタリア政府留学生として一年間宇宙線物理学に研究にイタリアのパドヴ

同助教授は大正十三年東京に生れ、昭和三十二年大阪大学理学部物理学科卒、直ちに同大学副手になり、二十四年四月本学理学部助手、二十六年四月同講師、二十九年十月同助教授になり今日に至る。

新学期から本格的な動き

社会学科の独立

去る六月、問題とされた本学社会学科の「部」に昇格させようとする運動は、夏期休暇中は全然教授会も開かれず発展していないが新学期をむかえて、本格的な動きをみせるものとみられる。

戦前の本学は経済学部と文学部の二学部で、学生数も約二千人に過ぎなかった。それでも当時の施設の面からみれば学生数は過剰であり、年々増加していく学生を如何に処理すべきかと云う事が、学校当局の悩みの種であったようだ。従って戦前の本学は極めて小じんまりとまとまった大学であった。それ故、教授・学生相互間には教育に関して厚実な学問、美しい学園と云う理想があり、自ずと真剣さが溢れていた。

この様な事から、従来の本学の種々の拡張や、原子炉設置、学部増設等の計画を見たり、聞いたりするにつけ、戦後の本学の発展には目を見張らせるものがある。こうして綜合大学としての体裁を整えつつある事は一般的にみて、誠に喜ばしい事である。

しかし現状を見れば、単に綜合大学としての完成を夢みて各々、やれ原子炉だ、社会部だ、法政学部だ……と勝手に騒いでいるように感じられる。学生数を増加し施設を充実するのは勿論努力を払うべきではないだろうか。

先ず現在の立教を日本の社会に完全に深く根を張らせることだ。基礎なくして逆ぶりはあり得ないのだ。本学の方針がキリスト教的学風に基づいた教育とは云うものの、一般の学生には何か漠然としたものにしか感じられぬようだ。また学部がないと云うことは他大学と比較した場合、引け目を感じないわけではないが、そうだから云ってただやたらと学部増設を叫ぶより一本「芯」の通ったものを育成することが先決問題ではないだろうか。学生数を増やすことが先決と思っているのが大分いるが、現在の学園を考えただけでも、狭い校庭や教室に学生が溢れている。それはるかに一般的傾向とは違り片付けるわけにはいくまい。

四ばかり大きくては足下がふらつくように単なる外見的発展には必らず何んらかの形で混乱が生じよう。

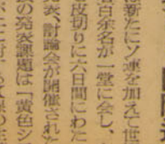
「須之内ゼミ」で研究発表

来る二十九日に

学生選挙研究連盟に本学から参加している須之内ゼミナールでは、二十九日山二選挙講堂で開かれる同連盟の定例研究会で研究発表を行う。

子孫に及ぶ放射能の影響

村地教授ら……國際遺傳学会で研究発表



写真＝村地教授

一九五六年度の国際遺伝シンポジアは日本（箱根）で開催、会期その他）で開かれ、本学からは村地教授が研究発表を行った。

今年は第十回ソ連を加えて世界の一流の研究発表が一堂に会し、九月六日を皮切りに六日間にわたって研究発表、討論会が開催された。村地教授の発表題題は「黄色ショウジョウバエに対するX線の生殖腺に及ぼす影響」というもので、本学伊藤助教授、山崎助手および都立大学藤原教授、吉田助手の協力を得て、三年間にわたってなされた研究の成果である。

これを要約すると、成熟した雄にX線を放射すると後に生れる子が減少した平常に戻っても生れる子は放射能による突然変異を隠し持つのである。

この突然変異現象は、まず精子を造る元の細胞に生じ、それから出来た精子によって受精された生物発表および特別テーマに関する徹底的な相互検討が行われた。これは今回初めての試みであるが非常に有意義なもので、充分意味する必要がある。なお同発表は、会期中物理生物学の部門の座長を務め、伊藤助教授は準備委員として活躍した。

特色ある労働者の生活向上を計ろうとする現実心理学の発表を注目のうちに行われた。今大会の特色として、篠崎反射についての研究が進んできたことが掲げられる。なお、次回は明年十月に九州大学において行われる予定である。

全学連秋の運動方針決る

定例記聞会見で発表

去る五日全学連本部にて、記者会見が行われ、委員会で決定された「学割の値上げ反対」等の決議事項の発表があった。

牧師三十人タッカーホール、チャペルを見学

五日午前九時頃、日本聖公会による「REFRESHER・COURSE」の講習を受けるため全国から集った約三十人の牧師がタッカーホールおよびチャペルを見学した。

就職 求人申込好調

懇談会の日程決る

九月に入ると就職に関する具体的な動きがはじまる。本学においても五日現在、求人申込みは七十六社に達している。申込み会社数は昨年同期にくらべて少々上廻っているが、例年の如く女子学生に関しては全く求人はない。

なお今年も例年のとおり同窓会主催の就職懇談会が来る九月二十四日から開かれる。各部門別に講師、先輩を招いて希望者に就職に関する一般的な知識を与えるためのもので、四年生が多数参加する。同窓会では盛んに勧めている。日時及び講師は左記の如くである。なお時間は追って時計台の下に掲示される。

▼二四日運輸 木村好一・三井船舶管理課長▼二五日金融、鐘川武夫・協和銀行本店営業部次長▼二六日鉱業、金谷正二・北海道炭鉱汽船総務部長▼二七日食品、山内光和・森永製菓総務部長▼二八日商事、永峰雄一・三菱新宿支店▼二九日出版、佐藤哲夫・新潮社取締役▼十月一日証券、藤田寛治・山一証券取締役営業部法人部長▼二日紙業、横山勝巳・山陽パルプ総務部副部長▼三日自動車、鶴所時満・トヨタ自動車販売取締役▼四日鉄鋼、渡辺長谷雄・日本鋼管賃金部長▼五日保険、土肥耕作・明治生命保険相互会社宣伝課長▼六日観光、古田直弥・帝国ホテル支配人

就職身体検査は

十日から十三日まで

経済学研究会　農村経済の研究に熱心な経済学研究会では、七月十五日から二十四日迄で十名が群馬県名和村に赴き群馬県に於ける副業（養蚕）の地位について検討した。

学園

会

聴者諸氏に長らく親しまれて参りました「学園時評」をこの度で廃止し、新たな構想の下に、学園に関係ある重要テーマを「学園」と銘打って、本学の次の諸教授の方々に順次執筆を願つて載くことになりました。御期待下さい。（順不同）

経済学部長　経済学博士　経済政策　河西太一郎教授

文学部日本文学科長　独文学　番匠谷英一教授

理学博士　理論物理　武谷三男教授

文学部社会学科長　文学博士　広報学　小山栄三教授

文学部教授　音楽評論家　辻荘一教授

告

立教大学新聞学会

心理学大会開く

條件反射に関する研究進む

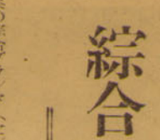
第二十回日本心理学大会は、先の七月五日から八日までの四日間本学において開かれた。参加者は学生三百人を含めて、約二千人という盛況であった。

五、六日の二日間は、一人十五分間の個人発表、後の二日は個人発表および特別テーマに関する徹底的な相互検討が行われた。これは今回初めての試みであるが非常に好評を博した。本学心理学科の教授は準備委員として活躍した。

綜合グランド完成

——使用細目は十一日の準備委員会で決定——

熊谷の綜合グランド（仮称）はすでに基礎的な工事を終了し、附属工事も今月一杯に完成する。このグランドは九月一日より一般開放、使用されているが、グランド管理などに関する細目は十一日の準備委員会で決定される。



学生部より

おしらせ

◎現在奨学生の八・九月分奨学金は、十二・十三・十四日の三日間、新規にあった学生は二週間後の十九・二十・二十一日に交付される。

◎二・三学年の奨学生は今月未決願いにより同窓会勤務を命ず

六月十三日　田丸　親男
同窓会勤務を命ず
七月一日　伊藤　宗

人事異動

チャペルの改装進む

新たに二階席を増設

立教学院では七月中旬以来チャペルの内部を改装している。従来の板の間をコンクリートに、壁の色を灰色にぬりかえた他、古くなったシャンデリヤを新しくし、一階後部の聖徒会関席を取り去り、新らしく二階を入口頂上に設けた。総工費約二百五十万円で九月二十日ごろ出来上る見込みである。

秋の六大学野球始まる

秋の東京六大学リーグ戦は、去る八月十一東戦を皮切りに約二ヶ月にわたる熱戦の火ぶたを切った。なお本校の今季の試合日程は左記の通りである。

九月八日立一法、九日法一立、廿三日早一立、廿三日立一早、十月六日立一慶、七日慶一立、十日早一立、十六日慶一立、十七日早一立、廿八日立一明、（土が発表）

開拓着々とすすむ

那須高原キャンプ地

先ず六月富岡教授から寄贈された十数ヘクタールの土地に、それでも今夏は三坪宿泊拒まれた。

道路には、三年計画で、チャペル食堂、図書館およびホールを中心とした清涼のようなユティ場が建設される予定で、百名から百五十名の学生が利用できることになる。

近く電機まで電化されるので、交通の便も良くなり、また那須としては珍しくスキーの好適地とあって、従来の八ケ岳の清涼寮に代るものとしてその完成が待たれている。

残りの開拓は経年夏期ワークキャンプで行うことになっており、来春から北西に広風林が作られる。

原水爆禁止世界大会に代表送る

級委員会から竹内君を

第二回原水爆禁止世界大会、長崎大会は約三千名の代表を集め八月九日から三日間、長崎市原爆被害の他の会場で行われたが、本大会には本学級委員会の竹内君（経済三）も原爆会出席者民代表として他の代表十名と共に出席した。同君は原爆被害者救援運動について立教大学独自の発言をし、第一日は原爆被害者の墓を慰める信者の合同追悼ミサを浦上天主堂で行ったあと、長崎平和広場で記念式典が行われた。二日目は大会の主要な行事である、六つの分科会が開かれ約五千名が参加し、次の七つの決議①軍縮と原水爆禁止の協定を成立させるための決議②原水爆禁止運動の恒久的確定締約を要求する決議③一九五七年に原水爆と軍縮の世界大会を開催に関する決議④原子力の平和利用についての決議⑤世界科学者会議開催する決議⑥沖縄問題の平和的解決に関する決議⑦放射線症の根本的治療を徹底させるための国際研究機関を設置する決議、を行った。竹内君は第二項の分科会に参加した。

帰京後君は次のように語った。世界大会の内容は余り充実していなかったが、これだけの盛大な大会が開かれた要因は各方面にわたった協力により三千名もの代表が集ったことだ。雑然として期待に反する点もないではなかったが、第一回に比して、この運動を政治的に解決しなければならないという考えが国民の中に浸透して来たようである。特に感じたことは学生と社会人との対立がないことで、学生は基盤機をとして資本調達等の問題で経済界の大きな課題であるオー点を解明する。時間は午後一時、

学部増設について

今年度から文学部の一部に日本文学科が設置されたが、今又ここに本学が綜合大学としての体制を整え様と、社会学科を文学部から分離して、新たに社会学部を設けようと云う提案がある。

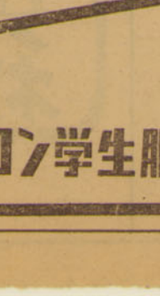
COFFEE・MUSIC
サブリナ
TEL(97)7898

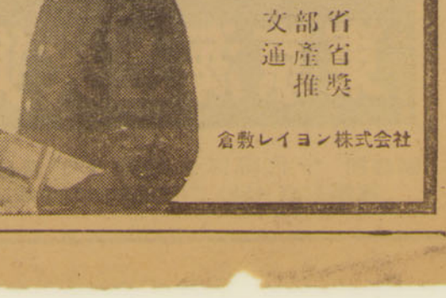
映画研究会

動き

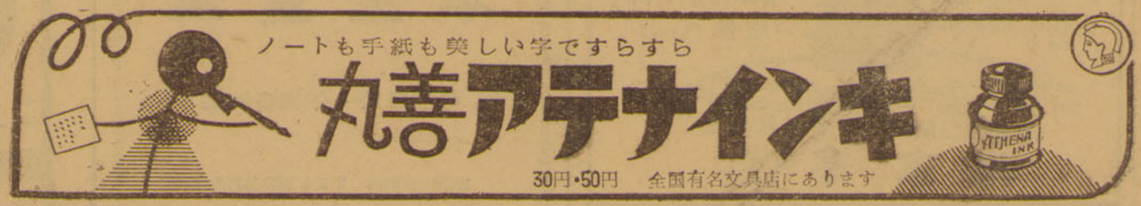
かねてから企画されていた同研究会の映画制作は、いよいよ本格的な動きに入った。すでに夏期休暇中にシナリオ第一稿の検討が終り今月中には決定稿が出来あがる予定、シナリオの内容は一人の運動選手を主人公に、彼の運動に対する情熱を画いたものである。なお同映画の撮影は来春の休暇を利用して行われる。映画の題名は未定。

ジャズ喫茶
五大通り
KOOL





ピアノなら福山へ！
神田小川町三菱銀行横 TEL(29)4677・8315



新宿高野
FRUITS PARLOUR TEL(37) 2151 2152 2153

話題の100万円コンテスト！

問題　下記の文章を50字以内にまとめて作文を書いて下さい。
私は銀座或は横浜イタリアンガーデンスのイタリア料理が大好きです何故ならば
（…以下50字以内…）

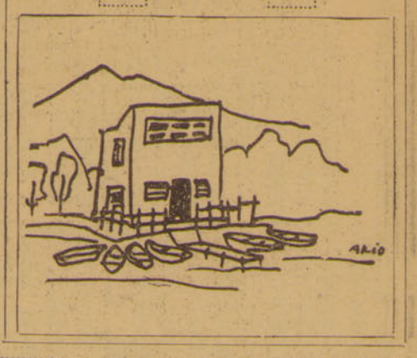
◆賞金　一等……50万円 1名
二等……20万円 1名
三等……10万円 1名
四等……5万円 1名
五等……2万5千円 1名
六等……1万円 5名
七等……5千円 15名

◆期間　昭和31年10月25日まで
◆用紙　東京・横浜イタリアンガーデンスで御飲食の方に進呈
◆宛名　東京都中央区銀座五丁目二番地（資本堂裏隣り）イタリアンガーデンス百万円コンテスト係宛
◆審査員　藤原義江・青野安・藏路吹雪
◆発表　11月10日内外タイムス紙上

イタリアンガーデンス
銀座五丁目二番地日本堂裏・TEL(57)7553　横浜市中区本牧一丁目四五番地・TEL(2)8450

スマート
一度御着用の方はこぞって賞讃
文部省 通産省 推奨
純国産合成繊維　倉敷ビニロン学生服
倉敷レイヨン株式会社

文化



東京港

串田孫一

（少）し前に描いた四号の油絵を、今小包にして、富山県の知らない人に送ることにした。二三ケ月前に、ある雑誌で、少し面倒なクロスワードパズルの出題をし、たった一人の正解者がきった。油絵をさげるというのがその時の約束だったので、それから腰を作って描こう描こうと思いながら、のびのびになり、あまりそれが気になるので一応旧作をその人に送ることにしたのである。

（私）の絵は大体は悪れたし、また悪ろうとは思わない。しかし、時たま、これ貰って行くよと言われると、下手な絵でも急に手離したくなくなる。それは変な気持で惜しいと思うのでもないし、恥かしいと思うのでもない。どうせさげるなら、もっと上出来のものを改めて描きたいという気持もある。今私が送ろうとしている絵は風の強い初夏に、芦浦の海岸べりに出て、三四時間、額に じりじり陽をうけて描き、そのまま手を加えていないものだが、遠方の煙突の黒色にしたり、空の青さを幾更に明るく描いたのが、今になれば気に入っている。

（こ）んな絵の説明はどうでもいいのであるが、私は東京の街の中にも、自分の身をすっぽり入れて、安心して素人の絵筆を動かしたり出来る場所が、まだまだ沢山ある のを知っている。隅田川の、東京湾に流れ込むあたり、倉庫と倉庫のあいだの、やっと通れるほどの路地をぬけるとやっと腰を下せるような、そし て壁によりかかっていられるような、そんな場所がある。

（私）しはまだらそうしたところへ行かなくなっていたが、またぼつぼつ出かける。とがめられないために、とがめられてもさやまりいよいように絵具箱をかついで行くのがいい。月島の先の、潮の匂いや油の匂いがぷんぷんする街に、夏の風景は、自分が死んでからも、殆んど変ることもなく、夏が来れば水がきらきら光るだろうし、冬の日には、雪が吸い込まれて行くにちがいないことを考えさせる。東京港はいつも適度によごれている。そのよごれ方が私には親しみを抱かせる。どんどん新しい姿をこしらえる街の中ではそんなことは考えない。また横浜のような大きい港でも考えない。東京港は私の感傷には手ごろなのだろう。

（筆者＝くしだ・まこいち・評論家）

出席者（五十音順）

東京ラジオサービス常務取締役、前ラジオ東京総務部長　大熊武雄氏
毎日新聞人事部副部長　熊野茂義氏
にんべん取締役　高津致道氏
第一銀行人事部次長　遠井昭夫氏
オリンパス光学工業高千穂商常務取締役　安田善一郎氏
日本鋼管資金部長　渡辺長谷雄氏
学生
本学経済学部長　河西太一郎氏
〃生人事部長　今村史夫君
〃経済学部　瀬戸伴泰君
〃文　但馬孝雄君
〃経済　村上喜美子さん
〃経済　渡辺興司君

〝狭き門〟は昨年以上か

文部省の調査によれば、昨年度の大学卒業者は十四万余、そして今年度の卒業見込者は十五万六千と いうことで、これからの就職戦線も昨年と上回る白熱ぶりを示しそうだ。しかし求職人が増加するからといって、それが就職難の進行を緩和するわけではない。求人側の雇用能力が上昇すれば問題はないはずだが、場合によっては状況は悪転するということもそえられる。それでは今年度の求人側の見通しはどうなのか。

第一銀行人事部次長遠井氏は「例年と変りはない。一般の銀行関係の見通しも経済界の安定によって過去三年間、雇用人員は安定している。大幅に採用人員を増やすということはない」と昨日新聞人事部副部長熊野氏は「去年は廿五名採用したが、今年は昨年より幾分減るようだ」と、悲観した情報だが日本鋼管資金部長渡辺氏は「一昨年大量に事務関係者を採用したので昨年は技術関係のみで事務系統は採らなかった。今年は好景気なので技術、事務関係に採用する予定だ」と云っているので幾分の光明もうかがえる。東京ラジオ・サービス常務取締役大熊氏は「約十四、五名採用するようになるとは思う。そのうち次第に三、四名ずつ いうことになりそう」にんべん取締役高津氏は「大量にとるというわけにはゆかぬが、やはり二、三名は採ることになる。」オリンパスの安田氏も「二名程度」といっている。一般に昨年並といったところが求人側の見通しのようだが、鋼管の渡辺氏もいっているように好景気のようだ。

しかし、大学卒の求職者が昨年を上回る今年はやはり、かなりの狭き門を覚悟せねばならぬ。

書類銓衡・成績・コネは？

就職試験を受けるには、先ず履歴書、成績証書、その他各種の書類を提出しなければならない。学生の中には書類銓衡について、いろいろと気にかんでいるものいるが「うちの場合、会社の須足間もないということからも、学閥とかコネはなく、従って実力主義により書類銓衡はしていない。」（東京ラジオサービス・大熊氏）「書類銓衡はしていないが、学校推薦によっている。」（第一銀行・遠井氏）というところもある。一方、書類銓衡をする会社は「昨年は各校十名ずつ採用したが、応募が殺りにもなかったので、やむを得ず……」（日本鋼管・渡辺氏）というのが現状で、これに対して学生側から「書類銓衡はやむを得ない」（学生・渡辺君）「無一枚で人物を採点されることは大きな疑問を持つ。」（学生・瀬戸君）という疑問論が出た。

また学生側からこういう質問が出た。「学校の書類銓衡があるから成績の良い人だけしか試験を受けられない。コネによって出した書類と学校から推薦された書類とはどの様に処分されるのか。」（学生・但馬君）これに対して求人側は「学校推薦のないものは駄目」（日本鋼管・渡辺氏）「試験は全部に受けさせる。実力主義だ。また、試験の成績が同じ場合は、コネの方を採る。」（オリンパス・安田氏）としている。さらに学生は、「科目によって点の取りにくいものが、点のとりよい科目を選んで安直に〝楽〟の数を稼いで 「真面目なアルバイトは良いと思う。」（日本鋼管・渡辺氏）と一部でいわれているようにアルバイトを気にする必要はないようだ。むしろ、有益な面があるといえよう。

苦しい立場に立つ女子

「女子の大学入学の目的は？」（オリンパス）という求人側の質問に対し学生・村上さんは「大言壮語する様だが、私の場合、一応文学を通して人間の真実に生きる姿を学びたかったからで直接就職を考えて入学したのではない。だが卒業をひかえる今となってはやはり就職問題には悩むわけ」と答えは国語であった。そして再び以前に返き、その研究方法について種々議論した結果、大きく歴史、統計、実態の三グループに分れ現在研究をすすめている。各グループの研究は、未だその成果を論ずる段階には到達していないが、今後この方針にそって努力して行くことになっている。

思想のゴマ化しは駄目

学生生活の過程で、サークル活動や、さらに、自治会などの活動が感冒活動と見なされたり、あるいは各人の思想などについて、採用者側はかなり神経質になっている、ということについて学生の方も不安を感じている。

「演劇、新聞などをやっていた学生はラジオ東京では歓迎する。思想の点は問題で、例えば街頭録音の重要なペースだから常識的に判断の出来る人を選む」（第一銀行・遠井氏）ということである。

学生側の言分はどうだろう？

「サークル活動にしても、学生自身就職のために、アカと見なされるようなものは敬遠して、希望するサークルにも入らずに居る」（学生、渡辺君）「思想はハネルの は責任に耐えぬ。サークル活動をした学生の方が、打算的に学生時代を過したものより、むしろ歓迎されるべきではないのか。」（学生・村上さん）「社会科学などやるのだから、思想的にも学生が進歩的なのは当然ではないか？」（学生・但馬君）

また「本心をかくして、採用者と妥協する学生もいるが、この見分けはつくのか？」（学生・村上さん）という点については「ゴマ化しても試験官に優秀な人がいればすぐわかることだ。論文を書いても筋が通っていれば それでいいわけで、日共党員は駄目だが…。」（東京ラジオ・サービス大熊氏）「ゴマ化して入ったというのはいない。」（毎日・熊野氏）「三・四年就職者をしているが、変節敗党にしても、社会党を支持していながら自民党という、何故か、どうして考えられない。それよりも社会党から社会党と理由をはっきり云える、個性のある人を望む。理論的な人は駄目。そういうのは理論も無茶としていないからすぐわかる。」（日本鋼管・渡辺氏）結局、妙な細工はやめてありのままを出す方が良いようだ。

求人側の望みは〝闘志〟

社会はどんな人を求めているのかまた立大生は社会の求めに応う答えればよいのか、一といった問題について、O・Bである安田氏（オリンパス）はこう云う。

「先ずセールスが出来る人、売り込み出来なくては、なにをともに駄目だ。人間としての大きさが問題だ。極論だが、なまはんかな学問より、その方が本質的な問題だ。悪く云えば立教の学生は青白きインテリで、カラーのあることは結構だが、立教ももっと拍大、明大型のファイトが欲しいとも、坊っちゃんという感じがする。それから特技とえば語学が達者とかソロバン、簿記、などが出来る人は有利だ。人に奉仕するという立教精神で！」

「ねばりある人、おとなしくて上品なのかも知れないが、人を押しのけても行こうという人がいない」（河西教授）「なまぬるいもう少しふんばってほしい」（にんべん・高津氏）「特に新聞社は実力第一で、学閥がないから、なんとかファイトのある人が神経戦新聞・熊野氏）「うことを出た人が五、六人 元気がない・積極性に欠しいようだ。見ているのは五、六人の人だけだ」（東京ラジオ・サービス・大熊氏）と厳が大分飛ぶ これに対して学生側から田舎は 「立教のO・Bに社会的に活躍しているのは少い。」「ゆく力がないからのために力が発揮出来ないというのは間違いだろう」

しかしこれは「団結心よりもO・Bの人数の問題」（オリンパス・安田氏）のように「古い卒業生で実業界にいっている人は比較的に少ない。」「無尽、一つ橋に比べると少いのだが、会社の幹部にきいて みると立教の出身者は、使いやすく、人柄がいいということだ。」しかし、（気遣、「頑張りが足りないというのは誤解だ。部長クラスでは活躍している。O・Bは人柄がいい。」

「私の会社でも、大いに運動をすることを奨励している。私の経験からみると会社に入って から運動部に入っていた者は何んにも出来ないと馬鹿にされた。それで大いに猛省した。運動をいつまでも続けることは出来るものではない。各教のために自分からかつて出て仕事をやるというようなことこそ 運動部は殆んど団体 休部授がチームプレーを通して仕事の面にも利益がある。「日本鋼管渡辺氏」「私の見る所 にもよる運動ということは単なる就職の手段に害なる。運動をいつまでも続けることは出来るものではない。各教のために自分からかつて出て仕事をやるというようなことこそ 運動部は殆んど団体 休部授がチームプレーを通して仕事の面にも利益がある。「日本鋼管渡辺氏」「私の見る所 にもよる運動ということは単なる就職の手段に害なる。運動をいつまでも続けることは出来るものではない。各教のために自分からかつて出て仕事をやるというようなことこそ 運動部は殆んど団体 休部授がチームプレーを通して仕事の面にも利益がある。「日本鋼管渡辺氏」「私の会社でも、大いに運動をすることを奨励している。私の経験からみると会社に入って から運動部に入っていた者は何んにも出来ないと馬鹿にされた。それで大いに猛省した